



ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2025年9月

販促・魅力発信

ふくしま常磐大漁市～ふくしまの海からSDGsを考えよう～

- 8月20日（水）～26日（火）の7日間、郡山市のうすい百貨店にて、「**ふくしま常磐大漁市 ～ふくしまの海からSDGsを考えよう～**」を福島相双復興推進機構の主催で開催。
- 本イベントでは、SDGsに向けた魚の資源保護に関する普及啓発を目的とした展示を行うとともに、お子さまに興味を持ってもらうことを目的として、海洋廃棄物であるマイクロプラスチックを用いた工作体験、お子さまたちが描いた魚の絵をデジタル画面で泳がせる「デジタル水族館」などを実施。
- あわせて、福島県の水産加工品の販売会である「**ふくしま常磐大漁市**」（**福島県漁連をはじめとした福島県の水産加工業者等11事業者の商品約40品を販売**）を出店。また、販売した事業者の水産加工品を具材とした海鮮丼3種も販売した。
- 23日（土）にはステージイベントを開催。郡山市の椎根健雄市長、うすい百貨店の横江良司社長にご登壇いただき、SDGsの取組等をお話しいただいた。また福島県内の高校生よりSDGsの取組等の発表を、トーシン（新地町）の日下社長より同社のタコシウマイの開発秘話の紹介を行った。
- 開催期間中は毎日多くのお客様が来場。引き続き、こうした支援を通じて福島県産品の販路拡大を進める。



マイクロプラスチックを用いた工作体験



ふくしま常磐大漁市



椎根市長（後列右から2人目）、横江社長（後列左から2人目）

- 海外有力バイヤー(マレーシア、インド、英国、フランス、スペイン、メキシコ、UAE)を仙台へ招へいし、水産物・水産加工事業者14社(うち青森県2社、岩手県1社、宮城県8社、福島県1社)を始め**8都県43社のサプライヤーとの輸出のための商談会を実施。**
- 合わせて**宮城県沿岸部の水産加工施設等の視察や関係企業による商品説明を実施。**バイヤーの産地や品質への理解が深化。

7カ国の海外バイヤー招へいによるジェトロ食品輸出商談会 in 東北及び産地視察

■ 食品輸出商談会 in 東北について

- ・開催日、開催地：2025年8月19日(火)、宮城県仙台市
- ・商談件数：49件(うち水産物、水産加工業者は17件)
- ・主な品目：海藻加工品、アナゴ、イクラ等

<参加事業者のコメント>

- ・なかなか会えない海外バイヤーと地元で商談することができ、大変有意義。
- ・今回バイヤーから商品の評価されたので、賞味期限を延ばし、またEU-HACCPの取得を目指したい。

【参加バイヤーのコメント】

- ・日本だけで入手できる最高品質の食材と新鮮な魚介類を必要としており、このような機会は大変ありがたい。

■ 水産品事業者訪問

- ・開催日、場所：2025年8月18日(月)
- ・訪問先：宮城県内の水産品生産・加工企業3社（取り扱い品目：カキ、ウニ、ナマコ、カレイ、銀ダラ、ホタテ等）
- ・内容：養殖現場や加工施設の視察、各社による説明、商談

【海外バイヤーのコメント】

- ・非常に高品質で味が良い。自国への天然魚の輸入が叶うなら、すぐにでもオーダーしたい
- ・ハイエンドレストランに対し、値段ではなく味で勝負してみたい。
- ・ホタテ貝柱の品質は驚くべき最高のもの。加工プロセスも印象的。



商談風景



ウニ加工場視察



養殖場視察

- 9月4日(木曜)に中小企業の経営者・後継者、支援機関等を対象とした研修施設である**中小企業大学校仙台校の食堂において、「三陸復興支援メニュー」を22食提供した。(完売)**
- 今後も三陸常盤ものの消費拡大を図っていく。

9月4日(木曜)三陸復興支援メニューの提供



◀(株)ニコクトラストと
中小機構が共同で実施

メニュー	仕入れルート
①まぐろのマスタードカツ	宮城県気仙沼市 (まぐろ)
②茎わかめのネバナバ和え	三陸沿岸 (茎わかめ)
③わかめ御飯	
④フカヒレスープ	宮城県気仙沼市 (フカヒレ)

◀写真(上)の定食
三陸常盤もの
仕入れルート一覧

仙台校 食堂のご紹介



栄養・ボリューム満点の食事を提供しております。
研修を受講される中小事業者・支援機関にご利用いただいています。

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ ふくしま」の取り組みの一環として、9月6日～7日の2日間、福島県郡山市の21世紀記念公園 麓山の杜で開催された「**福島フードフェス2025**」に出店した。農家×飲食店×酒蔵がコラボするイベントで、お酒のおつまみによく合う**常磐ものメヒカリのアレンジメニュー**などを計約**1,100食**提供し、家庭でも同じ味を再現できるよう、作り方、購入先の載ったリーフレットを配布した。
- また、9月13日～15日及び20日～21日の5日間、東京都新宿区の都立明治公園パークエリア（国立競技場隣）にて、東京都主催の「**TOKYO FORWARD 2025 for 世界陸上**」に出店し、**福島県産品を使った常磐もの海鮮おこわやふくしまの桃ジュース**などを計約**1,700食**提供した。

福島フードフェス2025

- 日程：9月6日（土）～9月7日（日）
- 場所：21世紀記念公園 麓山の杜



TOKYO FORWARD 2025 for 世界陸上

- 日程：9月13日（土）～9月15日（月）
9月20日（土）～9月21日（日）
- 場所：都立明治公園パークエリア（国立競技場隣）



理解釀成

- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページ**に**バナー広告**を掲載。

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

The screenshot shows a webpage titled "ALPS処理水に係るモニタリング" (Monitoring of ALPS treated water). It features a navigation menu on the left with questions like "ALPS処理水って何？本当に安全なの？" and "トリチウムって何？". The main content area is divided into sections: "ALPS処理水に係るモニタリング" (Monitoring of ALPS treated water), "ALPS処理水の分析結果" (Analysis results of ALPS treated water), and "東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）" (Monitoring results of the area around the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant (tritium in seawater and fish)).

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全上の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

- ※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
- ※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

- ※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
- ※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

現在の状態 ※

異常なし

- ※最新の各機関での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ⚠ 「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

周辺の海の状態はどうなっているの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

海水や魚は大丈夫なの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら



- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？



- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？



- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？



- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？



- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？



- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 本年8月30日に開催された「なつ祭りinおおくま2025」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



- 本年9月20日に開催された「WSL QS 6000 TAHARA PRO」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



- 昨年9月に我が国と国際原子力機関（IAEA）との間で実施することで一致したIAEAの枠組みの下での追加的モニタリングの一環として、IAEA関係者及び第三国分析機関の専門家が来日し、**9月9日及び10日に試料の採取を実施**しました。

概要

1. 9月9日、東京電力福島第一原子力発電所近傍において、IAEA関係者及び韓国、スイス、中国、ニュージーランド、ロシアの分析機関の専門家により、海水の採水が行われました。
2. 9月10日には、福島県いわき市内の漁港において、IAEA関係者及び上記分析機関の専門家が、水揚げされた水産物の選定を行いました。
3. **今回の追加的モニタリングは、昨年10月、本年2月、4月、6月に続き、実施されたものです。**
4. 日本政府は、**今後ともIAEAと連携し、国際社会に対して透明性高く情報提供を行っていくとともに、ALPS処理水の海洋放出の安全性について、国内外の一層の理解を醸成していくことに努めます。**

（参考）追加的モニタリングの試料採取の実施実績

- 第1回 2024年10月15日（海水を採水）
- 第2回 2025年2月19日（海水を採水）、20日（水産物を選定）、21日（海水希釈前のALPS処理水を採水）
- 第3回 2025年4月15日（海水希釈後・海洋放出前のALPS処理水を採水）
- 第4回 2025年6月17日（海水希釈前のALPS処理水を採水）
- 第5回 2025年9月9日（海水を採水）、10日（水産物を選定） **【今回】**

【外務省】ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの実施（結果）
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_02703.html

- 2025年5月26日から30日にかけて、IAEAの職員及び国際専門家（アルゼンチン、カナダ、韓国、中国、米国、ベトナム及びロシア）が日本を訪れ、**ALPS処理水の海洋放出開始後4回目となる安全性レビューミッションを実施**しました。
- このたび、2025年9月12日（オーストリア・ウィーン時間）、**IAEA（国際原子力機関）は、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出に関する安全面の報告書を公表**しました。
- **本報告書では、海洋放出開始後第1回から第3回までの報告書における結論と同様に、タスクフォースにより、「関連する国際安全基準の要求事項と合致しないいかなる点も確認されなかった」ことが明記**されています。
- 報告書における主な評価結果は以下の通り。

主な評価結果

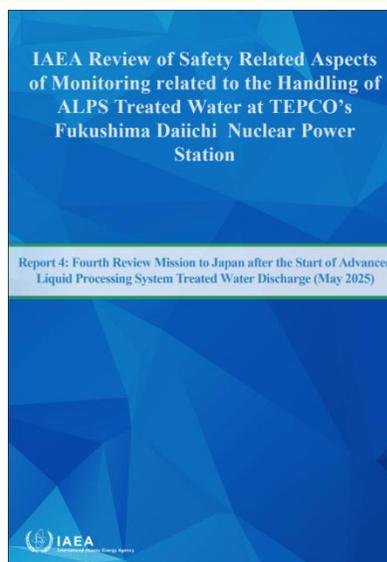
- タスクフォースにより、**関連する国際安全基準の要求事項と合致しないいかなる点も確認されなかった**。したがって、IAEAは、「包括報告書」に記載された安全性レビューの根幹的な結論を再確認することができる。
- タスクフォースは、**ALPS処理水のために実施されているモニタリングプログラムが、関連する国際安全基準及び指針と一致していることを確認した**。これらのプログラムは適切に記述、実施されており、その結果は、ALPS処理水の放出が人および環境に及ぼすリスクは無視できる程度であるという放射線環境影響評価（REIA）の結論と一致している。
- タスクフォースは、ALPS処理水の放出に関する安全監視を維持するため、**原子力規制委員会が自らのモニタリングプログラム及び現地での立会を通じて、ALPS処理水に対する規制上の監視を継続してきたことを強調した**。
- タスクフォースは、**機器及び設備が実施計画及び関連する国際安全基準に合致した方法で設置され、運用されていることを確認した**。
- タスクフォースは、**IAEAの継続的な裏付け活動並びに現地での独立したテスト及び分析が重要であることを指摘した**。IAEAは、東京電力と日本政府から報告されたデータの正確性と信頼性について、包括的で透明性のある独立した検証を提供するため、この監視を続けていく。

IAEAによるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビュー (海洋放出開始後4回目) についての報告書は、以下のIAEAウェブサイト参照

【IAEA】

Report 4: Fourth Review Mission to Japan after the Start of Advanced Liquid Processing System Treated Water Discharge (May 2025)

<https://www.iaea.org/sites/default/files/2025-09/fourth-review-mission-to-japan-after-the-start-of-advanced-liquid-processing-system-treated-water-discharge-0120925.pdf>



【経済産業省】 IAEAは、海洋放出開始後4回目となるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビューミッションについての報告書を公表しました)

<https://www.meti.go.jp/press/2025/09/20250916004/20250916004.html>

【外務省】 東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の取扱いに関するIAEAレビュー報告書の公表)

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_02702.html

【IAEA】 IAEA Report Confirms Japan's ALPS Treated Water Discharge Continues to Meet International Safety Standards

<https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/iaea-report-confirms-japans-alps-treated-water-discharge-continues-to-meet-international-safety-standards>

- 2025年9月15日から19日にかけて、オーストリア・ウィーンにおいて、**国際原子力機関（IAEA）第69回総会が開催**されました。
- 15日に、日本政府代表を務める**城内実内閣府特命担当大臣（科学技術政策）**が**一般討論演説**を行いました。

我が国政府代表が述べた内容（抜粋）

A L P S 処理水の海洋放出は、IAEAの関与の下で行われ、これまで計14回にわたり、計画通り安全に行われています。これらの海洋放出の安全性は、現行のIAEAによるレビューや、近隣諸国を含む各国の分析機関や国際専門家による拡充された参加の下で実施されている強力なモニタリングを通じて継続的に確認されています。**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組は、燃料デブリの試験的取出しを含めて、今後、安全かつ着実に廃炉を進めていく上で重要な前進が見られたと受け止めています。**

日本は、引き続き、国際社会に対して、科学的根拠に基づき、透明性の高い情報発信や丁寧な説明を継続していくとともに、IAEAによるレビューやモニタリングにしっかりと協力してまいります。

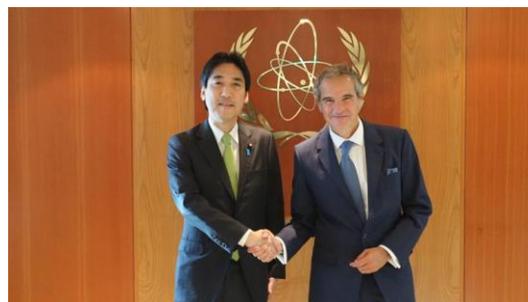
【経済産業省】 第69回国際原子力機関（IAEA）総会において、「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉と福島の復興」に関する情報発信を行いました
<https://www.meti.go.jp/press/2025/09/20250929003/20250929003.html>

【外務省】 第69回国際原子力機関総会の開催
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_02713.html

【内閣府】 第69回国際原子力機関（IAEA）総会等へ出席
https://www.cao.go.jp/minister/2411_m_kiuchi/photo/2025_102.html



（写真提供：内閣府HP）



（写真提供：内閣府HP）

- 2025年9月16日に経済産業省は、IAEA総会にあわせて、**サイドイベント「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉と福島の復興」を開催し、東京電力福島第一原子力発電所における廃炉と福島復興に向けた取組の現状を発信**しました。
- 本イベントは、東日本大震災から14年超が経過し、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉と福島の復興が地域と国際的な協力のもとで着実に進んでいることを知っていただくために開催しました。経済産業省、東京電力、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、環境省から、**福島復興に関する進捗の概観、東京電力福島第一原子力発電所における廃炉の現状、燃料デブリ取出しに向けた戦略、オフサイトにおける環境再生の取組を説明**しました。
- IAEAからは、**ALPS処理水の海洋放出に関連して、IAEAのレビューは独立性・公平性・透明性を備え、科学的かつ国際的な安全基準に照らして行われており、本レビューを通じて放出の安全性が確認されているとの見解**が示されました。

サイドイベントの概要

日時： 9月16日（火） 10時～12時

場所： IAEA本部

テーマ： 「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉と福島の復興」

日本側講演者： 経済産業省、東京電力、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、環境省

IAEA側講演者： 原子力安全・核セキュリティ局、原子力エネルギー局



サイドイベントの様子

- 東京電力福島第一原子力発電所における廃炉の進捗を示すコンテンツを内閣府が主催する日本ブース展示に出展し、国内外の皆様へ積極的な情報発信を行いました。



日本ブース全体



燃料デブリの模型



日本ブース展示・オープニングセレモニーにて城内内閣府特命担当大臣（科学技術政策）ご挨拶の様子（写真提供：内閣府HP）



日本ブース展示において展示したパネル

(参考URL) 「Decommissioning of Fukushima Daiichi NPS」のPDFについてこちらをごらんください
<https://www.meti.go.jp/press/2025/09/20250929003/20250929003-8.pdf>

- 現地時間9月23日午前10時30分（日本時間同日午後11時30分）から約30分間、国連総会出席のため米国・ニューヨークを訪問中の岩屋毅外務大臣は、ラファエル・マリアーノ・グロッシーIAEA事務局長と会談を行いました。
- 会談において、岩屋大臣から、**ALPS処理水の海洋放出のモニタリング実施に関するグロッシー事務局長の力強い支援に対して謝意**を述べました。



（写真提供：外務省HP）



（写真提供：外務省HP）

【外務省】 岩屋外務大臣とグロッシー国際原子力機関（IAEA）事務局長との会談
https://www.mofa.go.jp/mofaj/dns/n_s_ne/pageit_000001_00004.html

安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸 20 地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

(参考) 原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



- 2022年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年9月は2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：「視察・座談会」のご案内）

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ（2025年9月）

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/ℓ）を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

エリア	海水の測定結果【単位：ベクレル/ℓ】 （2025年8月1日～8月末までに得られた測定結果の最大値）
トリチウム【迅速測定】 ¹⁾	3km圏内 61 20km圏内 検出せず(<8.1)
セシウム134 ²⁾	3km圏内 検出せず(<0.97) 20km圏内 検出せず(<0.0014)
セシウム137 ²⁾	3km圏内 0.87 20km圏内 0.017

【参考】トリチウム濃度の比較

単位：ベクレル/ℓ	項目
60,000	国の規制基準（排水口） ³⁾
10,000	世界保健機関（WHO）飲料水ガイドライン
700	放出停止判断レベル ⁴⁾ （発電所から3km以内）
350	調査レベル ⁵⁾ （発電所から3km以内）

①：採取地点（海水） 定期的に採水し、放射性物質濃度を測定。
②：各島の監視は放出下監視、検出下監視を下回る場合は、検出せずと記載
③：トリチウムの放出下監視をリアルタイムで行うシステムは、測定データを蓄積して迅速に結果を得る装置
④：福島県沿岸海域における過去の最高濃度は、セシウム134：0.000051ベクレル/ℓ～0.028ベクレル/ℓ、セシウム137：0.00028ベクレル/ℓ～0.45ベクレル/ℓ（国産/日本の福島県沿岸と比較） 期間：2019/4～2022/3



海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や汚染物の放射性物質濃度に、**有意な変動は確認されていません。**
詳細は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water/treatment/monitoring/>

包括的・海域モニタリング観測システム（ORBS）

当社以外の各機関（環境省、水産庁、原子力規制委員会、福島県）が測定した海水および汚染物の放射性物質濃度に**有意な変動は確認されていません。**
詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるORBSをご覧ください。
<https://www.monitororbs.jp/>

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー（福島県双葉郡）

福島第一原子力発電所「視察・座談会」のご案内

廃炉作業はどのくらい進んでいるの？ ALPS処理水の海洋放出の安全性は？
そんな疑問をお持ちのみならずにおかれましては、福島第一原子力発電所の現在を直接ご覧いただき、
廃炉やALPS処理水に関する疑問や意見をお聞かせください。

※お申込条件：現在、福島県内にお住まいの方、または、2011年3月11日時点で県内にお住まいだった方。/18歳以上の方。（保護者同伴の場合、15歳以上の方も可）
/詳細はお問い合わせください。

●視察・座談会の流れ

12:00 廃炉資料館へ集合
13:40 福島第一原子力発電所視察
15:40 座談会
16:30 解散（廃炉資料館）

- ・普段着でご参観いただけます。
- ・本視察では放射線被ばくを伴いますが、被ばく量は0.01～0.02ミリシーベルト（飲料レントゲン1～2回分）を想定しています。

●開催日程（2025年度） 各回定員：40名（先着順）

⑧	2025年11月8日（土）	申込期限：2025年10月24日（金）
⑨	2025年12月13日（土）	申込期限：2025年11月28日（金）
⑩	2026年1月17日（土）	申込期限：2025年12月26日（金）
⑪	2026年2月14日（土）	申込期限：2026年1月30日（金）
⑫	2026年3月14日（土）	申込期限：2026年2月27日（金）

※①～⑦につきましては、実施または受付が終了しています。

**参加申し込み
お問い合わせ先**

080-5555-7988 (TEL)

受付時間：平日9:00～17:00（土日祝日を除く）
東京電力福島第一原子力発電所 廃炉推進カンパニー 双葉郡双葉町 廃炉推進センター 3階 視察推進グループ

詳しくはホームページをご覧ください

▶【視察・座談会】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/zadankai-j.html>

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大畑町大字天沢字北郷22